

長野県におけるオープンガーデン活動に関する研究

—小布施町と松本市のオープンガーデンを事例として—

正会員 ○ 河島 敬 *
正会員 上山 肇 **

オープンガーデン 交流 景観
コミュニティ 観光 まちづくり

1. はじめに

オープンガーデンとは、個人の庭を一般に公開する活動で、参加者が丹精込めて演出した庭園を一般に公開するものである。発祥は、イギリスで看護や医療、庭園保護への募金活動を目的に始まった。

日本においては1998年頃から始まり、現在も日本各地で行われている。まちづくりや交流、観光、趣味の延長や集客、募金活動などを目的として、日本独自の活動としてイギリスとは違う形態で広がってきた。

現在、オープンガーデンは全国で75か所程度実施されており、その中で長野県内では6か所で行われている。その実施件数は、全国的にみても多く、参加者数の大きなものが多い。本研究では長野県内で行われていて、参加者数の多く知名度の高い小布施町とその次に参加者数の多い松本市のオープンガーデンを取り上げ実施状況について調査した。



写真1 小布施オープンガーデン 写真2 松本オープンガーデン
(2015. 10 筆者撮影)

2. 調査方法と調査結果

2-1 調査方法

小布施町と松本市で実施されているオープンガーデンについてフィールドワークを中心に、実施団体へのヒアリングや参加者へのインタビュー、ガイドブック等から調査を実施した。

2-2 小布施町のオープンガーデン

長野県小布施町では、1980年に住民の日常生活に潤いある環境を提供しようと、町内自治会に「町を美しくする事業推進委員会」が発足し、子供たちが育てた花をまちに植える花壇づくりが始まった。

その後、花によるまちづくりの一つとして、イギリスのオープンガーデンの「小布施版」が提案された。小布施町のオープンガーデン活動は、「地域の人と訪れる人

との交流」「地域の人による地域の価値の創造」を実現することを目的とし、(1)町民が花づくりを楽しむこと(2)交流を楽しむことをコンセプトとしている。

小布施町のオープンガーデンは、2000年に小布施町を運営団体として参加者38件で始まり、現在は参加者125件になっている。全国的に見ても参加者数は多く、活動が盛んである。

小布施町の観光案内所を訪問し、小布施オープンガーデンの参加者にヒヤリング調査を実施した。その結果、次の回答が得られた。

1) オープンガーデン全般の内容

- ①開催するにあたって参加者が、オープンガーデン発祥の地のイギリスを訪問して参考にしている。
- ②訪問者は地域の人より観光客が多い。
- ③オープンガーデンに訪問者が訪れることで、近隣の人も家の周りを綺麗にするようになり、街が綺麗になった。
- ④125件の参加者があるが、訪問者の来ないオープンガーデンが存在する。
- ⑤町長が町を周って参加者を募っている。
- ⑥町ではイベントとしてウォーキング会を開催しその際、付近のオープンガーデンを訪問するなど工夫している。

2) 参加者に関する内容

- ①参加者は皆庭の手入れが好きで喜んで参加している。
- ②訪問者を拒む人は人は参加していない。
- ③体調をこわして辞める人もいるが、辞める人はあまりいない。
- ④開始から15年経過し高齢の参加者には、体力面で負担がある。

3) コミュニティに関する内容

- ①人が訪れることで近隣の人が協力してくれ、話し合いが生まれる。
- ②参加者同士の交流はあまりない。役場としても特に何もしていない。

2-3 松本市のオープンガーデン

松本市では花いっぱい運動によるまちづくりがおこなわれている。花いっぱい運動とは、1952年4月、戦後のまちが荒廃して人の心がすさむ中「社会を美しく、明る

く、住みよく」するために、当時、松本市の小学校教員だった小松一三夢によって始められた。運動の始まりから60年以上が経過し現在も継続されている。

松本市のオープンガーデンは、2004年に松本市を運営団体としオープンガーデンが開始され、およそ10年が経過した。現在は参加者72件と長野県内では小布施のオープンガーデンに次いで2番目に参加件数が多い。

日本でオープンガーデンの取り組みが初められたのは1990年代後半で、小布施町が2000年、松本市が2004年から始まっており、早い時期から始められている。

開催団体としては、小布施が小布施町役場、松本は松本市役所であり、共に行政が事業主体となり、“花や庭を通じた人と人の交流”と“心地よい空間づくり”を目的としている。運営については、ガイドブックの配布と現地での案内看板設置を行っている。

参加者数は小布施が125件、松本は72件である。それぞれ実施内容は異なっており、小布施の実施内容に合わせて松本の件数を算出すると、松本のオープンガーデンは52件となる。人口1万1千人の小布施町、人口24万1千人の松本市で、人口規模も含めて比較すると小布施の125件の参加者数は非常に多いと言える。

しかし、どちらのオープンガーデンも参加者数という観点では、全国的に参加者数の多いオープンガーデンと言うことができよう。

3. 調査から得られた知見

小布施、松本のオープンガーデンの参加者を分類し比較した。小布施も松本も個人住宅の他に商業施設、寺・神社、公共施設等幅広い参加者が存在し地域で取り組んでいることが伺えた。

小布施オープンガーデン			松本オープンガーデン		
個人住宅	65件	52.0%	個人住宅	22件	42.3%
商業施設	30件	24.0%	商業施設	13件	25.0%
寺・神社	5件	4.0%	寺・神社	4件	7.7%
公共施設	2件	1.6%	公共施設	8件	15.4%
その他	14件	11.2%	その他	5件	9.6%
未確認	9件	7.2%			
125件			52件		

図1 小布施・松本のオープンガーデンの参加者の分類

小布施のオープンガーデンは、全国的に見ても参加者が突出して多い。参加者の多い背景には、町長も自らオープンガーデンに参加しまちづくりへの積極的な取り組みが影響していると感じられる。

修景地区では、いくつかのオープンガーデンが集まっており、隣接するオープンガーデンとは境もなく、敷地内を自由に移動することができる。この形態のオープンガーデンは、小布施のオープンガーデンの特徴である。

松本のオープンガーデンは、都市部ではコミュニティガーデン、郊外では個人のオープンガーデンと公園・施設のガーデン、山間地ではナチュラルガーデンと、4つに分類し行なわれている。松本市内のそれぞれの地域にオープンガーデンがあり、花のある空間がそれぞれの地域で構成されて行なわれているのが特徴である。

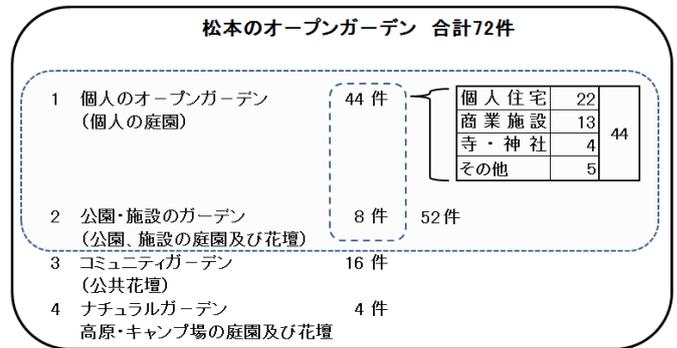


図2 松本のオープンガーデン

小布施での参加者からのヒアリングより、オープンガーデンの参加者は、庭の手入れが好きで喜んで参加することがわかった。オープンガーデンに訪問者が訪れることで、近隣の住民が、人に見られることを意識し自宅の周辺を綺麗にし、結果として街が綺麗になる効果がある。また、近隣の人が訪れた人の為にオープンガーデンの参加者に対して協力してくれる等、コミュニティの形成につながっていることが確認できた。

小布施では参加者へのヒアリングから、松本では行政へのヒアリングから、オープンガーデンの参加者同士の交流はあまり行なわれていないこともわかった。

4. おわりに

松本市は花いっぱい運動発祥の地である。小布施町も1989年に小布施花の会が設立され、古くからまちづくりに花を取り入れている。2つの地域では、まちを歩けば自然に花のある空間を演出している。小布施町と松本市は、行政や市民、企業の参加による花のまちづくりが浸透している地域であるといえる。今後、更に他の地域で行なわれているオープンガーデンについて調査を進め、オープンガーデンの効果について探っていきたい。

【参考・引用文献 (URL 含む)】

- (1) 河島敬・上山肇 (2015) 「オープンガーデン活動に関する研究」 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東) pp909-910
- (2) 小布施町 「おぶせオープンガーデンブック 2014」
- (3) 松本市 「松本オープンガーデンガイドブック 2015」
- (4) 小布施町ホームページ <http://www.town.obuse.nagano.jp/>
- (5) 松本市ホームページ <https://www.city.matsumoto.nagano.jp/>

*法政大学大学院 政策創造研究科 修士課程

**法政大学大学院 政策創造研究科 教授

博士(工学),博士(政策学)

* Graduate Student, Hosei Graduate school of Regional Policy Design

**Hosei Graduate school of Regional Policy Design, Prof., Dr. Eng., Ph.D